

ラーニングの実態と本質(三)

——『二人の怒れる男』(映画)からラーンする

ラーニングとディスカッションの実際水準——

大友立也

本編(一) 実態観察の場とした社内研修セミナー(の二)

二 このセミナーの教育構造

(一) 環境操作とその趣旨

(イ) なぜこの映画なのか

(ロ) なぜグループ・ディスカッションなのか

(二) 実施のはこび(と準備)

(イ) 上映

(ロ) 途中中断ミニ・ディスカッション

ラーニングの実態と本質(三)

ラーニングの実態と本質 (二三)

(ハ) クリアランスのための「設問」

(ニ) 「ピンポン球取り出し」体験と、「二つの振り子」体験

(ホ) 『当人体験』ケース・スタディ

(以上後回し)

——今回——

本編(二) 実態

一 ラーニング(とディスカッション)の実態 (の一)

「この映画から、いったい、われわれは、なにを、ラーンすべきか。この映画から、われわれは、いったいなにをラーン、すべきか」。それを、グループの答として、大事なものを、ひとつ、——二つあるいは三つになってもよろしいございますが、出来ればなるべく一つ、狙いとしては一つ——を、お出し、願いたい。それも、(多数決ではなく、また全員の完全一致ユーナナマス同意までもって行くのではなく)コンセンサスで、出して欲しい。よろしいございますか、『われわれは、この映画から、なにをラーンす、べきか』。

努めてゆっくり、意識して発音を明瞭に、截然たるべきは区切りよく、インタヴェンションニストは——上映の直前にもそして研修開始時オリエンテーション以来すでに何回か予告要求してきている、このディスカッションのディスカス内容を再度——鮮明に宣明して、「では、お始め下さい」と、開始の通告を終わる。

全員無言せいぜい二、三分、礼讓のためらいは型ばかりみせながらも、発言者間に問もあらばこそ、淀みない発言が、打ち続く。Tグループはじめこの種訓練で不可避必須的にみられ現れる長時間の沈黙風景、インスタラクターへの間接直接消極的反抗の空気は、ここではもはやみられない。インタerviewerニスト側「が」「隠し持った」「はずの意図」を「探ぐらん」がための「観測気球発言」「間歇連続打診」は、まったくかけをひそめる。インヴォルヴメント翕然、の事態を招致し得た。

かくて、セションの仰から、卒直・むく純状、当人の常日頃の、当該組織内における経営「生活」でのむしろ制度化し慣習化し習慣化したそのラーニングの仕振り様相が、諸に現われてくる。さらには、時間も要さばこそ、当該組織の文化（組織内通用価値観、組織内規範、組織内組織人間流通ゲーム、対組織カムフラージュ、のあり方）でのメンバー個々人別にそれぞれに当人化された文化を残した（佩びた）しかも限りなくそれらが透明なそれぞれのパースナリティーまるみえの、当人のラーニング能力の水位が、露呈してくる。

われわれの予期し期待した組織人の経営生活内での実態水準が、期待を裏切らずここに露呈する。ここに現れる「この実態」を、実際の経営生活中の実態とイコールにみることはむろん純理的に難がある。「これ」はそれに代替する実態であり、やむを得ぬ措置であることは、本稿（一）（本誌第七一号、昭和五五年一〇月刊）で縷説した。また、事実、この研修の行事のなかで実施する「当人体験」のケース・スタディとの関連において、「ここでの実態」が、当人の実際の経営生活中の実態とまったく一致する、その例示は、わずか一例ではあるが、『成城大学経済学部創立三〇周年記念論文集』（昭和五五年二月刊）所収拙稿「経済学はこの現実をどうみるのか」で立証してみた。（本稿でも、立証を、さらに加えることになる。）そこで、代替しうる実態として以下、その限り

その上での論考を進める。

かくてわれわれは、実態は「得た」のであり、これについての分析・批判を展示する任務を負いそれが充分に果たせることが筆者の意図した本稿の目的であるが、それだけに、本稿は、限られない。第一に、その「実態の分析」は、実態が捉えられたその瞬間に、説明が進んでしまいう文化人類学的社会学的社会科学対象の現象だからであり、第二に、そもそもこの観察が研修の場をかりてなされたものである以上、単なる観察に終わるわけにはいかず、被観察者であるところの研修者の研修の実をも効あらせねばならぬそのための教育が、併行同時進行する、つまり、「この実態」に対する矯正が行われたそれも、あわせ、記述することに、なるから、である。いかえれば、『ラーニングの実態、ディスカッションの実態』を知るだけでなく、『ラーニングの仕方、ディスカスの仕方』をラーンさせる」課業をわれわれは前提にしているのだから、である。この二つは、相互にからまりあいがら同時進行するからこそ、第三に、実践科学的である、からである。

さて、この、研修で捉えるラーニング実態は、ラーニングを、当然のことながら、対人能力インターパーソナルコンピテンズを捉えたその実態であり、そのグループでの応酬としてのその実態すなわちディスカッション実態である。換言すれば、ラーニングとディスカッションとが、相互にからまりあいがら同時進行する。この双方を同時論述することは、筆者の荷に余る。そこで、はじめにラーニング水準、つぎにディスカッション水準と、章をあらためて論述することにした。なるべく重複するところのなきを期さねばならないが、そのような次第でラーニングをみせるにも、ディスカス模様を提示する必要がある。以下本章では、はじめに、単発言を網羅的に展示し、ついで一、二のグループの発言を記録としてなるべく詳細に採録する。

ところで、映画をみて、ここで、みたということは、グループのメンバーが、同一の映画を、同時に（一緒に）みたということであり、同一体験をしたということである。狭義のシェアード・イクスペリエンス（カラバレイション）以上に同一の体験である。体験直後の各自の「告白」「ないし」「披露」は、ディスカッションの進行之したがって、その認識ないし意識あるいはもつと本能的に知覚をあらためなければならぬことになる場合もありうる。ここにも、かくて、ラーニングがあつていい。われわれは、頭書の、ディスカス内容の要求で、この両方にメンバー各自が乗つての、コンセンサス成就を、このディスカッションに求めた。求めたのは、このコンセンサスである。そうした要求に対して、まともに、この目標につこんでいってくれたグループは、わずかに、二例を数えるのみ。まったくの期待はずれであった。その二例以外のその他のグループ、これをかりに「通常グループ」といおう。

(→) 個々人の自力独力見解（通常自力水準）

以下に掲記する諸発言は、それぞれの発言が別人の、そして当人の（このディスカッションにおける、実質ディスカスが開始される以前の）当初の見解である。この研修参加グループの「通常グループ」全部を網羅した結果のもので、掲記の順序には、多少、似たものを聚めた整理は加えたこと以外は、順不同である。前後の発言には何等の関係もない。

正確に判断していかねばならぬ、正確に判断することが、一大事なことであるのを、ラーンしました。

多数決のおそろしさ、をつくづく感じました。少数意見を見過ごすことは出来ないのだ、と。

最初有罪ときまつて、フォンダは自信があったのかどうかわからぬが、勇気があった。あの、ひとの意見を変え(させ)ていく勇氣、には感心した。あれは、学ぶべきものがある。

フォンダの、あの自信には感心した。

フォンダに、自信があったとは、考えられない。

リーダーは、自信をもって、ヒッパッテいかなければならぬ。自信をもってヒッパッテいったのがよかった。

リーダーは、ヒッパッテいかなかった。それが、よかった(結果になった)。

リーダーは、ヒッパッテいかなかった。それが、わろかった(あんな混乱におとし入れた)。

リーダーは、何も、働いていない。役目を果たしていない。

人をリードする場合、よほど強い意志を持っていなければいけないことを……。われわれ課長職はリーダーシップを持っているのですから、このことは、非常に勉強になり、自信がつきました。

ある種の強引さもあっていいのだ、ということ、学んだ。

人をリードする場合、よほど強い意見と自信が、必要だと、痛感した。

信念を持ち、それをおし通さねばならないのだということ……。を……。

自分の意見をかえる、のは、勇氣がいることだなあ、と。

情報に対する判断、ということでも考えたのですが、人間は、個性の危険性が、大きいということ。

私情をはさんでみるのは、危険……ということを痛烈に。

ものごとの結果だけを見つめていたのでは駄目なのであって、過程を、もろもろ、広範囲に探索すべきだと、ラーンし

ました。

最後の人（「ドナリ」のこと）、思い込まないで、耳を開いて聞けばよかったの、では、ないかなあ、と、そんなふうに。

人間の考え方には、三つのタイプがあつて、問題意識があり多面的なものと、大勢迎合型、それから偏見・先入観に固執。そんなことを考へて（映画を）見ていました。そして、考へを変へるのは非常に難しい。ですから、（このことを考へると）これはどうしても一番のタイプになつていなければならぬ。わたしとしては、一番のタイプの人間になりた

い。

冷静にものを考へないとトンデモナイことになる。

不確定な資料でものを決めるべきでない、ということ。

重要な事実は見逃がさないように。

偏見で判断すべきでない。

コンセンサスを得るといふのが、得るといふことが、いかに大事かということ……

ラーニングの実態と本質 (三)

（被告の）少年の幼いころのことや普段の態度を先入観にしてゐる人が（映画の登場人物のなかに）いたが、そのときの事実をみて、先入観だけでは、いけない。こんなふうに考へました。

挙手投票と秘密投票とは、ずいぶんちがうものだという

ことを知りました。

（ひとの）意見を変へていくためには、聞く耳を持つて、真顔で聞いてやるのが、大切だ、ということ。

先入観・偏見ということがさきほどいろいろいわれたが、話し合いの場を持つてそれでやれば、事実が出てきて、結果的には、それでいいことになる。先入観・偏見の（ことを警戒する）ことよりも、話し合いの重要性、なのではないか。この映画はそれを教えているのだと思う。話し合いの方が重要です。

陪審員制度というものを、ラインした。なかなか素晴らしいものだと感じました。日本でも一度やってみたら、これは感動的な映画です。

陪審員としての資格のないような人、自覚のない人たちが、

ラーニングの実態と本質 (三)

かり。フォンダを除いては。「おじいさん」をいれてもいいかな、マ、この二人を除いては、責任感覚がまるでない。陪審員制度というのは、こわいものだと、識りました。最近アメリカでは婦女暴行事件が乱発していて陪審員がドンドン無罪にしてしまつて陪審員制度への批判が高まっています、なにかの本で読んだことがあるんですが、陪審員制度というのは、アメリカでも批判されているですよ。しかしこれ（この映画）をみると、なるほどと思えますよ。一九五七年の映画ですつて、なにも最近批判が高くなつたつていつつて、ずいぶん前からひどいぢやないですか。これは、陪審員制度廃止を訴える映画です。

陪審員など、あれシロトでしょ。なぜ専門家にやらせないのだから。

陪審員に「野球（狂）」のような、あんな不真面目な人はいれとていいのか。

雨が降りだす。暑い。環境というものが、大事だと思ひました。判断に影響します。ああいう暑い部屋でやったので、ああいう混乱になつたのだ。環境というものの大事なことをつづく痛感しました。

フォンダが、ひとりひとり相手を自分の考えのなかに取り込んでいく。タイミングの取り方、休憩のとり方、万事自分のペースで進めていく。実にうまい。でも、あんな調子でやっていくのがいいかどうか。もし、間違っていたら……と思ひました。

民主主義というものを学びました。

人間愛を感じた。

ディスカッションの仕方を学んだ。ああでなくてはいけない。

この映画でやっているようなディスカッションは、会社では、やれたものではない。やれりゃ、しあわせですよ。けっこうなディスカッションでした……の感じ。

会議のやり方・進め方を学んだ。

ディスカッションの悪例をみせた映画である。

議論というよりこれは激論で、暴力にさえ近い。これではないのか疑問。

ルールが無視され続けた。民主主義でないものを感じた。誘導質問で、持っていかれたような気持で、実にいやな気持。

この映画については語りたくない。実にいやな映画で、二度とみたくない。

真実追求ということまで心を打たれた。「建築技師」が、辛抱よく、やっていく。会社ぢや、とてもいけないが、でも、たまには、うちの会社でも、あっていいことなんぢやないかな……って、夢みたいなこと考えてました。たまには、やるべきぢやないかなって。

七つほど、考えました。

- 一 お互いに納得のいくまで充分に議論。
- 二 だれもが自由に発言できる場を作る。
- 三 不満に対し充分話し合い、原因把握。
- 四 仕事の重要さを認識する。
- 五 リーダーは相手の理解を確めながら。
- 六 型にはめこまず、あらゆる範囲。
- 七 管理職として説得力の養成につとめる。

ラーニングの実態と本質 (三)

決定的重大な事実を見落とすことのない観察力を、強くすることの必要。

確信の持てないことには、速断を避ける。

既成概念でものを見ないこと。

感情的な判断はことをあやまる。

同情はよすべし。

経験による判断は危険。

決定は、客観性によること。

直接利害のないことには、適当な判断をするものだ。

説得ということの重要なこと、説得力を持つこと。

相手を説得するためには、もとに戻って、ひとつひとつを検討すること。

われわれの議論は、うわっ一面議論。

ラーニングの実態と本質 (三)

人が人を裁くむつかしさを教えている。

推量でものをいわないこと。

どんな人間でも、話せばわかる。

中途半端な議論をするな。

一部がワカリマシタと知っていることが、いかにわかっていないことか、わかった。理解ということを安易に考えていたことを、つくづく反省させられた。

ここでは、一つも、没にされた発言がなかった。

発表する。

一 確たる証拠をつかんでものごとにあたる。

二 自分の持っている証拠が弱いために意見を交えてしまう傾向がある。

三 他人には同情して。

考える余裕のない判断はこわい。

民主主義というものを教えられた。日本人は民主主義を要

協だとはきちがえていいる。信念を通すことが、民主主義では、いかに大事かということをラーンした。

日本人だったら、はじめ、一度反対したら最後まで反対で通したがる人が多いと思います。うらやましいなと思いました。

みんながそういうならそれでいきますよ、とわたしなら、いってしまうのだが。感心しました。

少数意見をつぶすことのむずかしさ、少数意見のつぶし方を学びました。

あの被告の少年は、わたしは、やはり、本当の犯人だったと思う。

全員が確信のないもの、が一人がそういうことでひっくりかえる、真実が嘘になるって場合があるわけですよ、これは。

グループの和が参考になった。

多数決でやらない、これは専制的な、行き方である。

多数決をやりすぎる。

人の命の尊さ、を学んだ。

最後に「フォンダ」が、「ドナリ」に、うしろから上衣うわぎをかけて（着せて）あげます（『シークエンス』番号 39 のシーン）。思いやりがあつて、いいシーンでした。あの思いやりは実にいい。感動しました。

以上が個々人の独力自力での、この映画からのラインの「告白」の総覧である。全く正反対の所見も出てき、予期に絶する展開であつた。われわれは、学生をメンバーにこの研修をすでに何回か実施していた。それら
のときの結果からは、想像も出来ない語句が、ほぼ二〇才も年長の管理職組織人の口から出たのである。われわれが、心中期待していた答は、全く、現れなかつた。その現れない状況、独力自力の右の水準は、この六年間、微動だにしていない。ひとりで見せてはっておくと、この映画を、四〇才を超え五〇に近いあるいは五〇才を越した管理職課長さんがたは、このように、観るのである。

(二) グループ別ディスカッション諸例（資料編）

こうした所見が、どのように現れてくるか、その現れ方は、便宜三つの種類ソレゼンに代リ表シさせえた。かりに第一種を、かなりまとめて一気に語るグループとする。見解を語る前に、長時間かけて映画に対する感想・印象、映画のなかのイヴェント、登場人物評等について語りあい、そうしたなかで、あるいは、そのあとで所見を具陳する、これを第二種グループとした。したがつてこの第二種グループでは、他のメンバーからの影響も加わるので、それぞれの独力自力水準のラーニングを弁別し得ない場合が混入するが、それにしても、大差ない内容といい切

ラーニングの実態と本質 (三)

れる。第三種グループは、映画にことよせて各自が自分の経験を語り自分の経験のなかに逃げこもうとするメンバーの多かったグループ。以上三種の代表種のうち、第三種は省略し、第一種、第二種の発言態様を以下に、つとめて刻明に採録する。第二種代表例については、ディスカッション発言の実態の表示の意味もこめて、多少長い紙幅をこれにさく。なお、以上「通常水準グループ」とは別扱いすべき「非通常グループ」の実態を、対比の意味をもって、採録した。

A 通常水準グループ

第一種グループの一例(記録)

この例はさる大企業の本部部长がたグループの一例である。全員米または英在任経歴一年以上。全員大学卒(半数国立)、うち修士一名。

(インタerviewセッション) では、さきほどご覧いただいた映画から、上映直前に申し上げましたように、なにをラーンすべきか、われわれは、ということ、ディスカスを、お願いします。

どなた、からでも。

K○部長さん、いかがですか。

(K○総務部長) 何ですか。

(ITV) さきほどの映画から……。

(K○部長) 印象ですか。

(ITV) なにを、いったい、われわれは、ラーン

すべきか。

——問——

ラーンすべき、とお思ひになられることは、いろいろ、い

くつもおありのことでしょうが、大事なこと、われわれとして必要なこと、ということに、絞っていただいて。

—問—

それから……、そういうことですから、前におっしゃった方のあるのと、同じことを、後の方が再度おっしゃるのも、グループとしては無駄ですから——グループとしての答を、出そうとしているのですから、ひとつ、ふたつに、絞っていただくとするのですから——、同じ意見だとおっしゃるにとどめ、(ディスカッションの)始めは、別の、いろいろの意見が、出るのが、望ましいですな。

—問—

ですから……、となると……、さきにおっしゃられるほうがラクですな。そういうことになりますな。ま、フリー・チョイスで……。

(S a 不動産臨時対策部長)

それではエー・ット・わたし、座った順序から。エー・ット、ソ・ノ、マ少数意見というものデ・ス・キ、ヒジコウニ、コ・オ大事にしなければいけないというような感じデ・ス・キ。それはヒジコウニ少数意見というものの重みというものを、マいっているということが一つでございます。それから、あの中でマ、ソ・ノ、いろいろ論議されている中で、ソ・ノ・オ事実っていうか真実に対してヒジコウニ、コ・オ卒直であるということデ・ス・キ卒直であったって

ラーニングの実態と本質 (三)

うことデ・ス・キ。マ卒直さというのが必要ぢやないかといううなことが一つ。それからソ・ノ・ナン・テ・カ偏見というものデ・ス・キ。そういったもののコ・オ・ナン・カおそろしさっていうカ・キ。そういったマ・シ・ロ偏見にとらわれてはいけないといううな感じ。マそんな三点ぐらいがチ・ョ・ット・キ感じたくらいだったのですが。

(A Y 経理部長)

エー・ットそれでは、まず一つはデ・ス・キ、エー・最初集った一二人の人がなにをわれわれはソ・ノ・オ議論をすべきかっていうことがチ・ョ・ット十分コ・ノ・オわかっていなかったのぢやあないかと。それをマだんだんソ・ノ・イ・ロ・イ・ロ検討の過程でわかってきたということ、なにがこの問題で最も重要なのかというマ核心といえますか、アー・ソ・ウ・イ・ウ・ふうな点についてデ・ス・キ一つ一つコ・オつぶしていったト、マいうことでデ・ス・キソ・ノ・オ問題のとらえ方マ・ソ・ウ・イ・ウ・ふうなものがデ・ス・キ、マ、イ・ロ・イ・ロその過程でマ・デ・てきたわけです。マ・ソ・ウ・イ・ウ・ふうな点で、エー・ヒジコウニコ・ノ・ナン・テイ・ラン・デ・スカ、アー・問題の認識というものの重要さっていうんですか、アー・ソ・ウ・イ・ウ・ふうなものがヒジコウニ・オよくできていたト、それからどうもデ・ス・キ脱線しがちなたとえば自分の商売のことだとかデ・ス・キいろいろ途中でマ・マ時間つぶしにゲームを始めたト・マ・イ・ウ・ふうなことについてデ・ス・キ本論に引き戻すマ・ソ・ウ・イ・ウ・ふうなことデ・ス・キグループがマ・ハ・リ一つの全体の、

キ整理にキ進めるような雰囲気もますかそういうものをマ知っていたというふうな点が、マひとつ感心されたと思います。

(Ki 監査室長、のちに人事部長) この主人公のデ

ービスさん(※)ですか、マこのかたには、ヒキキキ証拠がはつきりしているんぢやないんですけど、マ疑ってみるということキホかの人にそういうアレはなかった。それからアほかの人びとが、ソ、マそれだけ証拠がないのに、ということ偏見キキこれは環境キが類似したというように、いうようなことだと、それからアいったんきめたんだからもう変えないんだというようにキ変える勇氣というようなところをキキそういうところの問題。それからアヒキキキ知っていることが証拠に出たときにはヒキキ強い反応キキたとえば小刀は下からしか突けないんだとこういうことについて一人知っているというのかそういう状況のかたは嘘だつと、キキいっているがほかのかたはマア上からたたけばいいぢやないかと、こういうなキキことキキ。それからマ他人ごとだということキキおれはフットボールの試合、野球でしたか試合があるんだからはやくきめてくれりマアおれはそれでいいんだ、いうようなことがあったとか。それから、一番最後にマア近眼の眼鏡キキおそろくここに

跡がつくんだから近眼だろうと思うんですけど、こういう近眼の眼鏡をキキみんながこれで探そうぢやないかというような雰囲気になったところではたしかにキキ探し出してきてヒキキキ有力な証拠になったんぢやないかと、マ、ソキキマ始めはそういうことをみな拒否していたワケキキ拒絶していたんだけど最後にはそういうものがヒキキキ重要なきめての証拠としてやったんだと。それから最後までマがんばった人は、これはキキ自分の子供キキキキそういうキキ接近した憎しみというんですかね接近した似た環境キ似たような人に対する憎しみと、マアそういうキキ論理的というよりもヒキキキかたい憎しみのようなものでマアきつく持っていたんぢやないかと、マアそういうようなこと、を、キキキキこういうものをみてなおしていききたいと、いうふうに感じたわけです。(※この名前は、終末、『シークエンス』番号42に、一度だけあらわれる。「建築技師」のこと。)

(Ka 社会福祉部長、のちの監査役、修士)

マ、キキ、英語がわからないものですから、よくマ、ソ、表現といえますかネよくわからないんですけども、マ、キキ、マ、一つのああいう目的を与えられておそろくマ陪審員が集まって、マ有罪になるか無罪の判決の、をきめる一つの目的を持って集まったグループのキキ、マ、キキ、マ、悪い面とかいい面をキキ出したと思いますけれど

も、エー、マ悪い、悪い、イッセルグループ討論といいますが、グループでできる場合の悪い面というのが相当でているト、マイまいわれましたアー、ソノ、身勝手なことをしている、ということと、あるいは、協調してデスキ、一つの問題について全体が協力する、マ姿勢がないとかデスキ、エーという点。マそういうのを悪い面だと思えます。マイいい面としては、マ少数意見もヒジコオニ尊重していくト、マそれに対してコオ反対する意見も、ほかの人はコオながめてエー問題のデスキ、エー、ソノ筋道といえますかねそちらへコオ引き戻すというふうな、マそういう点ではコノマアメリカ的な民主主義のルールのいい面というのが大分出ているような感じがするんです。エーただわたし感じましたのはデスキ、マ、コノああいう裁判制度のなかで陪審制度というのが、マ日本にはないのですけどアメリカは大大分ああいうスタイルになっているというふう聞いておりますけれども、マ果たしてああいうのが陪審員の、ほんとの姿なのかと思えますとね、ヒジコオニ、ソノ、おそろしいといえますかね、マ、ヒジコオニ、マ、マ、コノ、陪審員の役割の重要さということを感じながらデスキ、実際は、なにかああいうチャランパランナ人が大分いるというふうなマ、マそういうところはどうも、アメリカのあれが本当の姿なのか、あるいは裁判というものの、判決というものの、おそろしさといえますかね、そういう点を感じたわけでございます。以上です。

ラーニングの実態と本質 (二三)

(Mi) 教育研修部長、イギリス駐在三年・アメリカ駐在一年経験者) エーわたしはねマ第一に感じましたのはマイまKaさんもチヨットいいましたけどソノ陪審員制度のマこわさっていますかねああいうふうな、マ、ド素人が集つてアノ有罪だの無罪だのつてマ投票できめるといふ、いま現在もああいう制度とつている州があるのかどうか知りませんけれども、マアヒジコオニこわいって感じを受けましたですね。デエー、集つたアノ一二二人の陪審員の方がたデスキ最初ヒジコオニ安易な気持でデスキデスキヨツパナからアノ投票です。ソノ集つている人も、アノ、野球のことちやうという、デエその集つている人も、アノ、野球のことばつかこと気になつている人もいるし、それから楽書きする、している人もいるし、それからアノ審判長はデスキ、エエ、替わろうかなんて途中でいいだしたりしましてデスキ、ナンカコオ、ヒジコオニ役割意識というものが欠けておつたような面が、感じられたデスキ。これがアノ、「ヘンリー・フォンド」がアノ、ひとりでがんばつてマア実質上のリーダーがかがやったこと、やったことになるんちやないかと思うんですが、ああいう具合にマアたった一人無罪論者が全員マア無罪にまで持つていくというアノ、ヒジコオニ、マ劇的なマノ展開のしかたなんですけれども、そういうような陪審制度のチヨットこわさというところ、そういうところをチヨット感じましたですね。それからアノ二番目にデスキソノ偏見

う、それがマァいい悪いはいろいろ議論はありましようがそういうものが重要じゃないだろうか。それからマァ三番目はチャット、多数決でものをきめていく場合にひとつの人間社会のルールなり方向性を示すものでもあるけれどもそこになにか、マァそれだけではたして人間社会はいいのだろうか、いふなんか淋しさというか考えさせたものがございまして。マ、映、マノ画面からみた感じはそれなんですけれども。それから最後にですねえ、あれみていてッ、オ、ドウモあと味がわるかったのひとつあるのです。マその、あと味わるかったというのではマキキキ、直観的に感じたのはアレなんですけれどもわたし自身ああいふ場面を経験したことあるんです、ウフツ、正直いってマキキ。そうすつとああいふ制度をつくってマキキ裁くほう、またいろいろやる場合に、なにかッわたしは全然別の社会に生きたときにはマキキ、なるほどなあ、およそ立派なもんだなあところという感じは持つ

以上で、ひと渡り、発言が、済む。

このときのこの研修会は、教育研修部長、人事部長（前教育研修部長）兩名の発起、部長総意の上で、常務会の承認を取り付け、実施された、部長がたの自発的のもの。職員、電話受信・取次ぎ拒否ストが年何回か定期化してしまった時期に発起され、メンバーのこの研修への熱意には非常なものがあつたそういう研修会での、ディスカッションの、これが、幕開き、である。ちなみに、メンバーは全員インターヴェンションニストとは、かねて

ラーニングの実態と本質 (三)

ていたんですけれども、自分の立場がああいふふうなつて、なつた場合に、なにか、ッ人間社会のッ、制度なり基準なり人間の価値観というものをネエ、どういふふうにしてッ、チャットなんていうんですかねもつていくということ、人間のほんとおの幸せにつながり人間としての尊厳なのかという、マこれはどちらがチャット、画面をみたあとの、自分のッ、オ、ッ、触覚的というか触覚でいえば知的なものでネ、ナンカ心の中で、ハンブクを感じたという、あの映画そのものにてできたものからわたしのなにかッ、なにかそういうものを感じたのです。

(ITV) 「反復」ですか、「反発」ですか。

(Ko部長) 反発ですなナニカ、そういうものをネ感じたのです。これはマァ全然別の次元の話ですけれども、なにを感じたかということですから感じたものをズバリと申し上げましたんですけれど。

ラーニングの実態と本質 (三)

面識がある。インターヴェンションニストは、メンバーの上役である常務会メンバーの全員とも面識がある。

第二種グループの一例(記録)

(ITV) サア、早速ディスカッションに入っている
いただきます。いったい、われわれは、あの映画から、なに
を、ラーンすべきか。どうぞ御願いいいたします。

——約三分——

(Kd 課長) もう一回みたいですね。

(ITV) もう一度ご覧に、なりたいですか？

(Id 課長) 字幕を、見逃がしちゃったりして……

(ITV) それじゃあ、別室へ。

(Kn 部付) では、むこうへいきましよう。

(Id 課長) さぎに、観ますか!?

(Kn 部付) ウム? どっちでも、いい。

(ITV) すこし、やっってから?

(Kn 部付) やっってから!?

(To 課長) ウン、その方がいいだろう。

(Ue 課長) どちらの方法でも。

(Se 課長) あとで、自分の考えを整理してから

ン、いいですよ。

(ITV) ハハア。

——約二分——

(Kd 課長) どうするかな、これ。

(Id 課長) アノオ 感覚的には、フレッシユな——

方がいいんじゃないかと、思うんだけどね。

(Ha 課長) エエツ?

(Id 課長) まず昨夜(最終セッション)より*、ま

ず今日観て*、もうかいフレッシユに、考えん、ソノ立場に

立つて*、話した方がいいと思うけどネッノわたしはドゥッカ

。わたしはそう思うんだけど、。ナンカも一回観てから

ねッ。やった方がいいナと思う。ないわけではない。その方

が、いいナッツァ。

(Km 室長) でも、きのう観てネ、

(Id 課長) ウーン。

(Km 室長) こうなにか感じているはずなわけです

よ。

(Id 課長) それは残っています。

(K m 室長)

それを*

(S e 課長)

感じているッ方が……

(K m 室長)

T o さんが、いうみたいに、

(S e 課長)

素直なッ感じがッ、気がするんだよね。ウフウフ。

(K m 室長)

それですこしやってみてッ、ナンカ行

き詰ったりもう一度観たいという、気持になったら、また観るのも、ヨカローとッ、ぼくは思っているんだけどね。

(I d 課長)

それもいいんぢや、ないですか。

(K m 室長)

ウーン。

(I d 課長)

途中でまた観にいてもネ。

(T o 課長)

みなさんの、基礎の、意見を、聞いて

ネッ、ある程度、そういう見方もあるかどうかということ*、ッ、もつかい観なおしてみた思っているわけですよ。デェいままにもしないで観ますとね、自分のきのう観た見方とソオちがわん見方しちゃうんぢやないかと……：そういう理由です。

(I d 課長)

アー、アー

——約一分——

(T o 課長)

だれか、なにかを、出さないと……：進

まんなあ。

(I d 課長)

U e さん。U e さん、どうですか。

(U e 課長)

……

ラーニングの実態と本質 (三)

(T o 課長)

それぢや、観ようか？

(I d 課長)

へへへ、どちらがア、ハッハ、いいですか？

(K m 室長)

ぼく？ ぼくは、あとで、観たいね。

(T o 課長)

だれからア……

(S e 課長)

それ、それぞれ意見いったら、ど……

(T o 課長)

それ、一人ずつ、意見いつてみるか。

(U e 課長)

いつていうのは？ ッ、あとに観るか、さきに見るかぢやなくて……：なにに気がついたかということ*をさきにいつてみるということ？

(S e 課長)

ぢやなくて、さきに観ようがあとから

(U e 課長)

観ようかッ意見わかれていましたね。

(T o 課長)

ソダネエ、ぼくはどっちかッという

(U e 課長)

観る方が？

(K d 課長)

観る方があと。

(H a 課長)

わたしも観る方が、あとです。もうち

よつとあとに……

(H a 課長)

ぼくもア、さっきT o さんがいわれ

たように、いま観たら*エきのうと同じような、自分なりにしか観ない。だからここである程度、自分で、みんなでど

ういうことを学ぼうト*なるほどそういう見方もあるのかッ

というようなことを知ってまた観ると見方がまたちがうと思

ラーニングの実態と本質 (三)

うんです*。で、いまんとこで直接観るより*、多少、意見交換で、いいですかね、した、した途中で、観たいと……。

(I d 課長) いえ、いま、わたしは、すぐの方がいいかと、思った。

(K n 部付) ほくは、もう、あとでいいんですけどね、あとでいいんですけども、あまりそれまでの間に*、議論しつくすようなところまでいくとナンだから、ほんとうに各人が*、サツと意見をいった、ぐらいいとどめて、観るといふことではないとね、要するに、程度問題ということですよ。そういう条件なら*あとで観ることがいいと、思いますがね。

(K d 課長) ウン、それでいいんじゃないですかあ。

(T o 課長) わたしも*、K nさんに賛成です。

(S e 課長) ほくは、ナンカ、コノ最初の印象を大事にしたい、感じて*、いま、みると*、ナンカコノ非常に、ッノ一所懸命コノこの映画からなにを、学ばなければいけないかという、先入観があつて、素直な気持で、観れないんぢやないか、という気もするんです。

(K d 課長) ハッハッハッ。

(S e 課長) だから、きのうの気持を大事にして、マァノ人それぞれだからみんなちがうと思うんだけど、わたしは、ここが印象に残った、それを、披露したあと、

観たら、いいのかなとイッ。

(I d 課長) わ、わたしも、マノ自分の、最初から観たいという話ばっかぢやありませんし*、T oさんが先程いわれたヤツにも賛成できますから、大半の皆さんがアレですから、わたしも、ぢや、皆さんのディスカッションしたあと、少し観るとかね……。

(K m 室長) ぢや、そうしましょう。ネ。

(S e 課長) ぢや始めます。

(H a 課長) あのチャットコレ(椅子と机の)レイアウトコレ変えちやいけないんですか、チャット、ナンカ、ナンカ、コレ

(I d 課長) 遠すぎる? こう? こう? ずうと?

——移動、三分——

(U e 課長) ナンカコッ一人ずつ、ナンカ、主な、印象みたいなのを、コ、いいあつて、それで、疑問かナンカあつたときに、ス、確かめて、観るぐらいの、程度で、どうですかねえ。

(I d 課長) いいですね。

(K m 室長) 印象ッナなに? 観た感想?

(U e 課長) ウン、あの、マここの、先生の、この

映画からなにをラーンすべきかという答そのものでもいいかも、しれないシ、せいから、ああいうところが印象に残ったトカ、ッノ場面でもいいと思うし、人でもいいと思うし、そ

れからナンカ起きた現象でもいいと思うし、……

(ITV) ウーン。

(Ue 課長) 範囲が、広すぎますかね？

(Km 室長) だからそういうッ印象とか感想とかい

うものを*、コノ自分の気持とかコノ頭にパッと、強く浮んだことを指して、それを通じてコノテーマに沿うかたちで、発言しあうのなら、

(Ue 課長) ウン。

(Km 室長) そういう方法がいいですね。

(Ue 課長) ウン。そういうことですね。ヤッパ

それがナンカつながっていくト、いう具合に、わたしは、思うんですがね。

(Km 室長) 賛成ですナ。

(Ha 課長) イヤ、Kmさんのいまいわれたこともう一度いってもらえますか？ ほく、いまチャットわかんな

い。

(Km 室長) アノ、ただ*、あいつがどうだった

トかこうだったトカ、そういう印象なり感想なりを*、述べあっているだけぢゃなくて、

(Ha 課長) エエ

(Km 室長) それを通じてこのテーマに近よるよう

な——テーマの解決を目指すような意味合でそういうことを述べあうことがいいだろうと、ただ、非常に暗い映画だった

ラーニングの実態と本質 (三)

とか*明るい映画だったとかいうような印象を述べあうのではなくて、という意味。

(Ha 課長) はあッわかりました。

(Kn 部付) わりあい*、ほんとストレイトな印象

みたいなものから、入って、いいんぢゃあ、ないですか。

(Se 課長) わたしも、そう思うんですが。あのね

え……

(Kn 部付) ネエッ。あなたがいうような方向に行

くと思うんですが、

(Se 課長) 結果的にはネ。

(Kn 部付) ウン、結果的にはア、ウン、びっくり

したならびっくりしたとか*。そういうことから入っているような気もするんですがね、ほくは。

(Se 課長) ナンカコラーンするっていうのは

*

(Ha 課長) ウン。

(Se 課長) それが目的で、なんいうんぢゃなくて、

ウン、わたしが感じるの、一番自分がコウ大げさでいえば感激したとか*はっとしたとか*、そのことが、結果的にはッ、ラーンしたことになるんぢゃあないかという気

持もするんです。

(Kn 部付) ウン。

(Se 課長) だからア、ほくはッわたしでいえば

ラーニングの実態と本質 (三)

ッ。一番あのときに、はっとしたとか、ここについて、感じとか、それがヨッサみんなが、出てきたらば、それがチャッパリヨッサほんとの意味で、ラーンすることにならんのかと、そんな感じがするんですけどね。

(K m 室長)

ウーン、ウーン、ウーン。

(S e 課長)

だからァ、ウーン暗いと思ったらば、どこの場面が一番暗いことを、あなたは、感じたのかと、そこを浮き彫りにしてくれば、いいんじゃないですかナ。

(K m 室長)

ウーン。あまり抽象的に、ならず、ネ。

(S e 課長)

ウーン。ウーン。

(K m 室長)

具体的に、場面をネ。あすこの場面だとかね、あの人間だとかね。

(K m 室長)

いや、わたしと、言っていること、同ンじだと、思うんだけどね、……

(S e 課長)

イヤッ……

(U e 課長)

ぼくはネ、K m さんのいわれたことは *、たとえば、あの映画は、たとえば九割ぐらいが、ひとつの部屋でとられた映画だとか *、それから、ヘンリー・フォンドが非常にうまくやっていると * ナンカそういうことだつて印象にあるわけでしょ。

(K m 室長)

ウーン。ウーン。

(U e 課長)

そういうことッァいうのか、コノラー

ンすべきことに、は、チャット ぼくは、むすびつかないんぢやあないかナァッァいう気がするし、そういうことを、もし、強く印象に持っておられる人がいると、それいってもあまりッンもとめるラーンに話がむすびついていかないんぢやないかと、いうようなことをK m さんが、いわれたんぢやあないかと思っただんですけど。そうでしょ。

(K m 室長)

ウーン、そうですね、だから、いまS e さんがいったのとぼく全然、異な感じを、受けないわけ。

(I d 課長)

いま、あ、う、あ、あの映画、暗いという、感じ、だ、という、話、だけで *、という話でしたけど、ちやどうして暗い、と感じたんですかわたしは明るいところ感じましたよと話は、きつとその人のちがいが出てきます

* *、それもやっぱり学びにつながって、いるわけです * *。

どうしておれの見方とちがったんだろうかッァは、ほん

とうは、映画そのものよりも、ッンこのなかからまた学べる

わけです * *。そういう、価値観のようなものの、ちがいと

いうことを、ア自分という人間、パーソナリティ、自分とい

うものとのです *、たとえばU e さんと、ァちがつたんだナ

ァ、あんな見方もあったんだな、これから学べます * *。だ

から、意外にフリーで話だしていくと、そこからドンドン *

出てくるような気もしますけどね。あまり、意識しない方

が。

(K m 室長)

ウーン。

(I d 課長) そういう意味では、ぼくは、K n さん
* いわれた話と * ヨット いま K m さん話された内容とも、ち
がうような気がする。……

(K n 部付) ぼくはネ……

(I d 課長) ……そうぢやないでしょうか。

(K n 部付) ……最初、アノ、かれの、いまはもう
わかっていていると思うんですが *、あなたのいわんとしたのは
*、たとえば映画の撮影技術 * 撮影技術ここからのアングル
がよかつたとかわかつたとか * そんなことを議論するんぢ
やなくて、なくてもとッ、人世のどう……のですか * そう
いうことから、方から考えていこうぢやないかトいうような
ことを、いったわけでしょ。

(K m 室長) そうです、そうです。

(I d 課長) それでは、賛成します。それだけど

(ムニヤムニヤ)。

(U e 課長) I d さんのいわれたニアンスとこの
はどうですかねわたしは * ヨットなんかちがうような気がす
るんだけど。

(T o 課長) ウフフフ、ワハハハ。

(U e 課長) 映画をみた、その映画をみた……

(K m 室長) ちがつたつて、ぼく、いい、ぢやない
かと思うの。やっているうち、わかるぢや……

(U e 課長) ウーン、マアそうは思うけど *

ラーニングの実態と本質 (三)

(H a 課長) 看取(？感取？)をなににするかぢや

ないかと思うの。ぼくあの映画をみてね、それぞれこの八人
がどう受け取ったかそういう受け取り方があるわけでしょ。
ただ映画をみて * ストリー全体、ストリーがどうのこのう
ぢやなくて *、全体に、映画そのものに対しての、*ノ印象
を論じあうのか *、たとえば *ノ最後まで頑張った *ノ人 *
気持だとかそういうものを、それぞれどう受けとったかって
ことと、だんだんちがってくるわけですよ *。

(K m 室長) そのときにネ。

(H a 課長) エエ。

(K m 室長) ただッ、あいつはどうだこうただけで
議論をせずに、*ノコウイッなを学んだかということ、
* ヨット 思い出せるようにしておけば、話しあいもまた変って
くだるうト、いう心得的な意味で、ぼくは * ヨット * ヨット 最初
にいったんだけど *。だから * だれが * いることをう
んぬん * 白黒つけなくても * ぼく * と思うんで、大体その方
向だなとみんなが、思えたら *、スタートした方がいいト、
思っているんですよ、いま。

(S e 課長) 本論にはいいいいんぢやないです

か。

(I d 課長) エエ、そうしましょう。

(S e 課長) ネエ。

(T o 課長) だれか口火を。

ラーニングの実態と本質 (三)

(S e 課長) そう、そう。

(T o 課長) I d さん。アノ I d さんあたりから、どうですか。

(I d 課長)

わたしですネ、コウヤッパリアノ、観ていましてデスネ、アノ—当然ッ、あそこでは、自分の主張を、チャンとしなけりやあ、いけないなト、マいい加減ぢやいけないなト、いうことですネ、はつきり自分がなにを考えているかっていうものをいわないかなトと、いうことと、ヤッパリ相手のことをキチット聞いてないと、まったくガタになってしまつて、どっちの方向へ進むのかコウあつちこつちいくんで、そういうことは日常のなかでもヤッパリアあるんですね、キチットいまなにをこの人は話しているのか、ということを確認してネ、自分なりにネ、キチット聞いておくことの大事さデスネ、マこういうことをヤッパリアノ感じたのですネ。ウツから、目的が、ひとつですから、そういうことであれば、メンバーがその目的に向けて全員がッ、参画していなければいけないデスネ、そんなことをマなんとなくチョットメモツてみたんですネ。そんな感じを、受けたんですよ。それは、大事な、ことだなあ、自分にとつてもネ、そう、感じましたけどね。

(T o 課長)

イヤ、ネ、わたしは、ネエ、最初にヘンリー・フォンダはネノット・ギルティとやったときにネ、根拠はどの程度持つておつたデスカネ、はつきりものをい

うだけの根拠が。それはアノナイフをチャント用意してあつたわけだからネエ、相当コレひっくりかえそうという意図は、あつたかも知れんけれども、アどのなかかわからんけれどもネ、最初にいうた話は、なんとなくッ、無罪だと、半、考えるという、ひじょうにあいまいに他人を説得する力のないものからスタートしておりますね。マそれでもアノ、あれはッ、ある種の規制によってッ、ルールによってネ聞かざるをエッ、マ完全一致でなかつたためにネ聞かざるを得ないためにああいうことになれたわけだけでもネ。そんなに完全に自分の主張を最初に、やらなかつたら、駄目なのか、どうかッて……

(I d 課長)

それはッそれは、こうだッと思うのですよ。その、主張つていうものについてのネ、たとえはコノ自分にネ、ッ、チツチャナコノ、ナンカ疑いがあつたんでしようネ、いまのT o さんの話を聞いても、ナイフを持つて来たということは。さてほんとに少年だったのだからか。ナイフつていっばい売つていのかどうかってことナンカいつてましたネ、ナンカあんなの一〇丁も売つているト、ナンカいつているんですけれども、いまのアレぢやないですけどもネ、他の人が。マカッそれを、チョットしたこと、自分のすこしの疑問があるのならばそれをブツケテみて、みんなのマ、* 気持を聞きながらそれでコ、だんだんと自分の気持を一つの方向へかためていくト、いうことからすればネ、チョット

したことも主張は出来るわけです*。なにもないよりは、なんか、あったわけですから。

(K m 室長) ぼくは*。いま、そういうふうによつ
ッ……順番……

(I d 課長) T o さんに……。チョットまって……
ッ……あッ、

(K m 室長) ……話すときに、そういうふうによつていいのかわるか、知らないんだけど。ぼくはいまの話については*、六日間だか七日間だかずっと、法廷で聴いてたわけでしょ、陪審員たちは。その間にかれはッ、ナイフに対して*そんなにスペシャルなナイフなのかどうかという、疑問も持っただろうし、ッたまたま買いに行つたらあつたし。かれが冒頭述べてたみたいに、かれの気持としては、みんながサツと有罪だとするときに有罪だといえないなにかを*感じてたから、かれはかれなりに自分の気持に忠実に、有罪と、いえなかつたんだト、スタートはそうぢやないかなと思つてます。

(I d 課長) それは、それはやはり、自己主張、でしよう。

(K m 室長)

(I d 課長)

(K m 室長)

(I d 課長)

ラーニングの実態と本質 (三)

ッ。

(K m 室長) そうでしようね。

(I d 課長)

無罪ということ。チャッパリコレひとつの自己主張、だと、わたしは、思うんですけど、ね。だから、それは、もしあるんならば、はっきりいうことだ。あつてもいいわなよりは、あつたらいうこと。これが大事なんだなあと。

(K m 室長)

(I d 課長)

(K m 室長)

(I d 課長)

……ト。T o さんわたしはそういう考えマス。

(T o 課長)

チョットひっかかるのはね。先程ッ、自分の主張をはっきり述べなければならぬッ、いってしよう。その辺は*なんとなく釈然としないところがあるッ、*ところが、最初のスタートでござんすね、ッ、論理的証明は*その時点で、出来ておらんわけでしょ、であれば、最初には、チャッパリものは、はっきりいえなかつたわけでしょ、説得できるだけのね。ですからチャッパリ納得させ、自分の心にかに忠実であつたかというだけのことであつて最初は。ッ、けつしてッ、相手をッ、説得できるものではなかつたト、いうことでないかと思つてますよ。

(I d 課長)

ネッ、ぼく、すごく、ネ、あすこで、

ラーニングの実態と本質 (三)

ネ、大事だと思つたのは*、わたしわかりませんか*、ナンカ簡単にいうでしょ、あれも、ヤッパリ自己主張です**、だって、わかんないですケノ。わかつたのかわかんないのかわからないようなかたちをとるよりも、ナンカわからないっていうのもヤッパリ主張、でしょ、自己。あれはモウ*ぼくは、あすこら辺で*いろんな、*キ、場、面、でも何回かでてくると思うんですけれども、なんかいわれると、*アアワからないとか*、いうのを、大事だと、思いますね。そういう意味の主張があるわけですから、ものすごくトットトットトトって*いだけで主張ぢやないと思うんですケド。

——問——

(ITV) チョット、いかがでしょうか、いままでのところ、を、(録音テープで)再生してみませんか。再生すると、ラインするところが、あるかもしれません。みなさんで、再生するかどうか、おきめいただけます。それ(再生)よりも、先へ行こうそれも結構ですが。

——全員再生に賛成、再生に入る——

——再生おわる——

(ITV) (再生を聴いてみて)いろいろと、お考えをお持ちですか？

(Km室長)

いま聴いての、ですね。ぼくはアノオ

……

(ITV)

いや、おっしゃられないで、どうぞ。み

なさん各人、それぞれに別なものと思うがラインするところ、お持ち、ですか、お持ちでしょうね。

(数名、個別に発言) あります。

(ITV) では、再生に入る前のところから、先へ、お続け下さい。

(Kn部付)

ぢやあ……

(Se課長)

Idさんのところ、もうおわり、ですか。

(Kn部付)

ぼく、やりましょうか。アノコレアノ、

狭い一室での、話、なんです。けども、実際にはマアぼくは*、人間の*本質に迫る問題をテーマにして採り上げているのではないかと思うのです。テひとこといいますと、人間の*ッノだらしなさといえますかねいい加減さというか、そういうものを見せながら、一方、同時に*人間のマ偉大さっていうんですかねそういうものを見せている。デ、マアわれわれ凡人はマアその間をいつたりきたりしているわけですが、れども、この映画のなかでは*最初に*ッノ、マそういつたマインナスのところをみせている、それから次第に*、*ッノ人間が*ッノ偉大なところに変わっていくというその成長の過程を*、ナンカマザと見せてもらったような気がするんです。それがぼくの印象ですねえ。だから、人間というのはマア、*ッノなんているんですかね、マ両方もっているな*という事です、ね。以上です。

(K m室長)

ぼくは*Knさんとおんなじような、
ことになんのかわからないけども、結局それぞれみんな個性
があるし、ッノ表情とか*動作とか、もちろん発言内容もそ
うなんだけど、みんなそれぞれがってて、それぞれが普
段の自分と同じように最初のうちやってたのが、ドンドンド
ンドン進んでいくうちに、影響を受けて変わったりする、そ
れらが如実に出てたなと思うし、ッノ最後の方で、ッノ最後
までひとりで主張しててね、ッレかれば自分で語りなが
ら、自分で気がついたんだけど、そういう時にッノまわ
りの人が、気がついたということわかと*、それはそれな

りにみんながコッ見ているというアノ感じが非常にコッ感銘
を受けたんですけど*。終わってたあとサッパリ、サーッとコ
*それぞれ散って行くあの風景も、たいへん印象に残った
し、そういう意味でまとめていうならば、人間一人一人ちが
うナト、そしてッノほかの人から見えてあつてるとかあつてな
いといつて、たとえば間違つてたにしても、なんかのチャン
スでそれ気がつけるんだナト、いうようなところを強く印象
に、持ってます、ね。

(T o課長)

わたしは、……

このグループの右のディスカッションの開始、頭は、午前八時三〇分。

次掲の頭の発言時は当夜午後一〇時一五分。この間、延延と——途中昼食夕食の計二時間と二回ほどのコーヒ
ーブレイクを除き——映画のなかのイヴェント、人物心理等の印象そして、多くのグループで同様に議論の対象
になる、「建築技師が、提案して、自分を除外して他のメンバー全員で実施させた秘密投票(『シークエンス』番号
12)は、建築技師の「賭け」であつたのかどうか」「陪審制度は、あれでいいのかどうか」「ドナリの翻心(『シ
ークエンス』番号38)は、本当だつたのかどうか」が、問題になり続ける。

(K m室長)

時間かけたわりに……ネ

(ITV)

ネッ!!

ラーニングの実態と本質 (三)

ラーニングの実態と本質 (三)

(Se 課長) そういうことがあっても……

(Km 室長) アッ!! それで面白くねえのかなほく

は! そうかもわかんねえなあ。ま、そんなようなわけです。つぎに進みましょう。

——問——

(Se 課長) 本来の課題に戻って……

(To 課長) ここまででいいから、みんなが何を考

え……

(Kn 部付) ……やるのかア、もうその、最後の本

題にはいって、いくか、ネ?

(Se 課長) どうしても、まだ、話しておかねばな

らないということがあれば……、やりますかね。

(Kd 課長) まとめに、入るの、賛成ですね。

(Id 課長) そうしましょうよ。

(Km 室長) ウン、やってみようよ。

(To 課長) どういうやり方、しようかい?

(Se 課長) それぞれが一番、学んだというか、ラ

インしたことを、さっきToさんがいったこと、でしょ。

(To 課長) いったかな?

——問——

(Km 室長) やろうとって、ウンといたら、こ

の課題に対して、解答、一つぐらいいは、持っていることだねえ。

(Se 課長) そう、そう。

(Km 室長) ベースとしては、ねえ。

(Se 課長) ウン、

(Km 室長) ね。

(Se 課長) 解答はどうかってことだよ。

(Km 室長) いや、いや、

(Se 課長) もうちょっとはつきりば。ハッハッハ

(To 課長) もうちょっと大きく。聞えない。

(Km 室長) 大きかったよ。あのね、ちゃあ、そ

ろそろ、〆、課題に対してね、解答をつくることを、やろう

かと。そしたら、ウッンとって、もしそれで不足だった

らその時点からまた戻ればいいのだから。って、いったでし

よ。

(Se 課長) ウン。

(Km 室長) ということは、みんなそれぞれなんか

持ってたかねえ。持ってたからウッンとってんだから。そ

れを披露するのいいや、Toさんの一つぐらいい出す

うかということに対して、確認と同時に賛成したワケ。ぼく

は!

——問——

(Se 課長) ちゃあ、やろうよ。ネ。いいでしょ。

どうですかね、ほかに意見が、なけ、れば。こんな感じで、
——問——ひと口でいうことむづかしいなあ。どういった

らしいのかなあ。

(T o 課長) 全部をいわんでもいいんだよ。

(S e 課長) なるほどッ。

(T o 課長) 一つずつやれば、いいんだから。

——約五分、無言ないし関係のない雑語——

(K m 室長) ぢゃあ切り出し*、いまアすこしアレ

したんだけどもまとめてみたんだけども、ぼくは、この映画をみて、人はそれぞれにッ……

(S e 課長) 黒板、使いましょうか。

(T o 課長) ウン、ア、その方が、いいかもしれないな

い。

(S e 課長) その方がいいネ。その方がいいです

*。

(K m 室長) いや、ぼ、ぼくは、不用。話す、話す

だけでいい。

(U e 課長) いま、なん、なんですか？

(S e 課長) イ、黒板、使う、必要、ないかと思っ

て。

(I d 課長) 使った方がいいんじゃない……

(K m 室長) いや、いや、ぼくは、——(黒板に)

書くのきらいだから、不用。

(S e 課長) だけど、

(T o 課長) あなたの意見をみんなが、おほ、おほ

ラーニングの実態と本質 (二)

えと……

(S e 課長) 忘れちゃうんぢゃ

(T o 課長) ……るとい……忘れちゃうんだヨ。

(K m 室長) ああそうかッ。

(S e 課長) またッ、黒板に書け……書けるよう

な、短いものぢゃなくちゃ長いものだ、困るけど。ある程度、出すととなるとネエ、短文にまとめなければいけないでしょ。

(K m 室長) そうか、ソ、か、そういう意味でね。

(S e 課長) だったらア、一人ひとずつ、時間か

けて*、五分なら五分、きめて、マ、簡単な、文章とか、単語が知らんけど、まとめて、それを、発表してみても、そういう手も、あると思うんだよ……

(K m 室長) あーあ、

(S e 課長) ズウッといつてもねえ、アアソウカ

ソウカで、またなが……

(K m 室長) 消えちゃ、消えちゃうといけないから

ね。

(S e 課長) ここまで来たらね、ある程度そういう

う、手法、使ってもいい……

(T o 課長) どれが、どれが、重要で、あるかッ、

ちゅう……

(K n 部付) 時間かけて……

ラーニングの実態と本質 (三)

(Se 課長) ひとり。一人、ね。

(To 課長) 一人。ウン、そうしようか*。

(Se 課長)

(Kn 部付) エー三分ぐらいで。

(Se 課長) マア、出来、出来る……

(Kn 部付) 五分ぐらい？

(Se 課長)

——各自、思考・作文に、とりかかる。全く無言、
二〇分経過——

(Kd 課長) そろそろ……

——Se 課長、自分ももう「黒板への書き役」とき
めていて、移動黒板を、部屋の中央に移動させ、板面の事前
清掃も終らせ、チョークを持ってその脇にたえずむ——

(To 課長) はい、Ue さんから、いこう。

(Ue 課長) 一つだけ？

(Se 課長) いたいこと。なんでも。

(To 課長) 一つずつ、いう……

(Kn 部付) 一つずつにしよう。ネエ、それから、

眺めて、ネエ、エッ、考えま、しょう。

(Ue 課長) エーっと、「人はそれぞれに歴史を持

っており、……」

(Se 課長) けっこう長いですか？

(Ue 課長) 「……その価値観は、に大きく影響し

ている」それだけ。——歴史っていうのはチャット。——も

う一つあるんですけど、あとで、出なかつたら……

(Kd 課長) わたし？ ひとことできて「人間と

いうのは心理的な存在だ」と、心理と行動とが……

(Se 課長) (黒板に書きながら)「存在である」？

(Kd 課長) エエ。

(Ha 課長) ぼくは、三つあるんですけどね。もっ

と単純に、「事実を……」、ひとつ挙げるとしましたら*、「事
実を正しく知りもしないで、判断してないか……」

(Se 課長) (黒板に書きながら)「判断」？

(Ha 課長) ……してないか」っていうことをラー

ン、した、ということですね。——それは映画にも出ている
し、

(Se 課長) (黒板に書きながら)「事実を……」

(Ha 課長) 「事実を」*、「正しく」っていう表

現が*、マ、正しくしておいて下さい。「正しく知りもし
ないで、ものごとを、判断してないか」ッァいう……。「判

断してないか」ぢゃなくて、「してる」ってことを、ラーン
したんですね。

(ITV) 「正しく」ってとこ、「充分」って、い

ましようか？

(Ha 課長)

(ITV)

(Ha 課長) ハイ、はい。

(ITV) お気持はそれでしょ。

(H a 課長) 自分で、ひっかかっていました。

(S e 課長) (黒板に書き終えて)「判断してない」

と、

(H a 課長)

「している」ってダメネ。

(I d 課長)

簡単に、図示しますとチャッパリ、「相

手の……」、「自分の……」、ちょっと長いんですけど、自分の考え方を理解してもらって場合にはダメネより相手の人の、多くを語っていただいた上で、ワ、理解をして、してもらった方がいいんじゃないかチャッパリ気持ですから、よくチャッパリ相手の、こと、をよく聞きたいッ

(S e 課長) (黒板に書き始める)「よく相手の……

ことを、理解」

(I d 課長)

「理解する」

(S e 課長)

「理解、してから、」

(I d 課長)

そういうことです。イエ、「理解。」で

いいです。

(S e 課長)

「理解」?

(I d 課長)

ハイ。

(S e 課長)

「すべきである」ト

(I d 課長)

ハイ。

(K n 部付) ちょっと、書いてくれないで。前置きチャット申し上げます。ぼくはコレネエ、この映画でないとなかなか*なかなかチャッパリ識ることのできないあるいは

ラーニングの実態と本質 (三)

体験できる、できにくいことは、なんだろうかと思ったんです。それを考えまして、書いてチャッパリですけれども、「グループ討議のあり方」ア、「好例」、「グループ討議の好例」、よい例*。——で、カッコ全員一致、とでもしていただきますかね。

(I T V) ウーム。

(K m 室長)

エーットね、ぼくは*、「人それぞれ

にパスナリテイがあり、言動にあらわれる」ト、——「ことがわかったことを通じて自分のパスナリテイを知れ」ト。まあ整理してないんですけど、そういったようなことを、メモッタ。えー自分のパスナリテイを知れト。それから……ああ、一つ(だけだったの)ね。

(T o 課長)

わたしは*、多数決の、おそろしき、

——こわき、こわざだよ。

(S e 課長)

(黒板に書きながら)「こわざ」?

(T o 課長)

ああ。どっちでも、いいよ。

—— 問 ——

(T o 課長)

ちょっと、なおしてくれんか。「多数

決の欠点と偏見のこわざ」にしよう。

—— 問 ——

(K n 部付) ナンカアまとめられそうなのを、つ

(T o 課長)

あるなあ。

ラーニングの実態と本質 (三)

ば、その人に気づいてもらうための行動が、とれる」でもいいし「できる。」人と人との関係において*、本当にわかったならば、その人に気づいてもらうための行動がとれるという事。

(To 課長) それは、主語いれて、みて。 「わたしは」か、わたしがほんとうにわかったならば、「相手に」気づいてもらえる チェック意味か。

(Km 室長) もらうための行動を、わたしが、とることが、出来るという、意味。

(Se 課長) ウン、ということは、相手に伝えられるという意味？

(To 課長) 相手に伝えられるという意味、か？

(Km 室長) ウム伝えられるの、ちがうんだナ。

(Se 課長) 気づいてもらえるワケでしょ。

(Km 室長) ア、伝えられる、説得、ぢゃないんだよ*。さっきのはなしで。

(Ha 課長) 気づいてもらえるような行動を、ほくは、とれるト。

(Km 室長) とれるト。

(Se 課長) とれるという事は、気づいてもらえらるという事でしょ。

(Ha 課長) それは、わかる。

(Km 室長) そ、そ、そ、そう。

(Se 課長) 気づいてもらえるような行動がとれる

.....
(Km 室長) ハア、ハア

(Se 課長)でしょ。

(Km 室長) はあ？

(Se 課長) 結果的には、気づいてもらえる行動がとれるということは、気づいてもらえるってことぢゃないですか。

— 間 —

(Km 室長) マ、かどうかわからんねえんだけど、マ、そういうことだね。

(Se 課長) ほくは、Kmさんいつていることわかるんだけど、ほんとに、わかったら、ネ、相手にも、わかってもらえる、という意味でしょ。ぢゃないノ。

(To 課長) いま、Kmさんの文章、もう一べん、.....

(Km 室長) そうありがたいッ。
(To 課長)もうッペン読んでみて。わし、

ちよ、ちよっと.....

(Se 課長) ちや、(黒板に) 書いときますよ、そのままネ。「ソーシャルな.....」

(To 課長) 「ソーシャルな関係においてわかったことを通じて.....」

(Se 課長) 「関係において」——「ほんとに」
だったっけ?

(Km 室長) ウン、「ほんとうに」をいれたいの。
ね。

(Se 課長) 「ほんとうに、わか、れば、」
(Km 室長) イヤイヤ、わかったことを*、ウン、
わかればでもいいですよ、ウン。

(Se 課長) 「わかれば、」「相手……」
その人に気づいて

(Se 課長) 「相手に」
もらうための行動が

(Km 室長) 「気づいて、もらう行動が」
もらうための行動**

(Se 課長) 「もらうための、行動が、とれる」
てことですね。

(Km 室長) とれる・できる、どっちでもいいんだ
けど。

(Se 課長) 主語をいれれば、ここに「わたしが」
ね、

(To 課長) 客語は?
(Km 室長) エッ?

(Se 課長) 「わたしが」
(To 課長) わたしが、「なにを」わかればいい?

ラーニングの実態と本質 (三)

(Se 課長) ほんとうにわかれば……
(To 課長) なにを?

(Km 室長) ウーンそんなの、どっちだっていい
で、これで多くのいっていることわかればサア、主語もなに
もねえと思うんだど……

(To 課長) あーあ、そうか、
(Ue 課長) 相手に、なにを気づいてもらうの?

(Se 課長) 自分なわかったこと、をでしょ。
(Km 室長) ウンだからなにか問題があったりね、

その上に書いたことと、関連してんれすけども、たとえば、
防衛機制にグウツとはまっちゃった行動をすごくとっている
人が*、いたというのが、ぼくがほんとうにわかれば、相手
にいま防衛機制を働かせてガッ*となっちゃっているよとい
うことを、気づいてももらうための行動もとれるという意味な
んですよ。ながなが書くど。

(ITV) ぼく、わかるな。みんな。
(Ue 課長) わかる。

(Se 課長) ぼくも、わかる。
(ITV) だからっていつて、相手がすぐにそれで
わかっちゃううと、いかどうかは、

(Km 室長) ……わからないんです。
(ITV) わかんない!!

(Km 室長) ええ。

(Se 課長) 書いておき……「相手を理解」?

(Id 課長) 「話しあう相手を、よくみつめる」

(Se 課長) 「相手をみつめること」

(Id 課長) みつめるって言葉が適当かどうかわかりません。それは、「人間理解における大事な要素」と。

(ITV) その「人間理解」ということは「相手理解」ということですか。

(Id 課長) はい。——間——ア、アノ、アッ。自分のことも知ってもらう、相手のことも知りあう、こういう関係。

(Se 課長) 具体的には、話すときに相手を、みる、と。事例としては、そういうことですね。

(Id 課長) そういうことです。

(ITV) ウー、ちょっと*。人間理解ねえ!? お互いの理解を進める上において、「相手をよくみつめること」が、大変大事な要素である」ト。こういうことですか。

(Id 課長) はい、そういうことです。

(ITV) フーム。——間——「おじいさん」の、Idさんがいわれたと思うあのシーン、あれは、素晴らしい。わたしも感動してます。エラク感動してます。だけど、ナア、「みつめる」ということでネエ。物理的に*肉体的に……

(Se 課長) 表現の問題ですネ。

ラーニングの実態と本質 (二)

(ITV) ウウ? 表現、ちゃんない表現が問題って
いうんぢやない……

(Se 課長) ハーあ……

(ITV) ……のですよ。

(Se 課長) はい。

(ITV) それをいわれるのだったら、グッと突き抜けて、主体の問題といたいところだが

(Km 室長) わかるような気がする。

(Se 課長) ハー?

(ITV) いまは、それどこぢやない、解決しとかなくちゃあ。——間——Idさん、ぼくも、あの「おじいさん」には感心したが、Idさんのいわれること、それでいいのかなあ。それだけでいいのかなあ。

(Id 課長) それだけで? それだけでといますと? わたしは*わたしなりに……

(ITV) じっとみていれば、理解が進むのですか。

(Id 課長) ですから、お互いに見つめあって*

* 相手も見つめてくれることになるんですか、こちらを?

(ITV) エエ。

(Id 課長) 「おじいさん」がみつめている)あのと

ラーニングの実態と本質 (三)

き(相手の)。「背広」は見つめ返えしてくれましたか？

(Kd 課長) みつめてなかった。空をとるか、宙をみて、考えてました。

——問——

(ITV) 相手を見つめるというのは、心理的に見つめる、相手のことを考えてやるといふことが……

(Id 課長) そうです、そうです。ですから、ぼくは……そのことも^{デス}^{デス}含めて^{デス}^{デス}

(ITV) ああ、そう？ 含まれてるの？ ——問——
でも、変だな。さっき、横向いて喋ってたのではないかっておっしゃっておられませんでした？

(Id 課長) ウーン、ああ、そうかあ。

(ITV) 相手の眼をみて喋る、これは大事なことです。Idさん、ですがね、意見のあわないやつからジィーと^コ^コ。意見のあわない上役からジィーと。あなたのようない途の方から^コ^コ。

(Id 課長) ウーン、あーあ、むずかしいナ。ぼく、ぼく一途ですか。

(ITV) 一途と思っちゃ、いけませんか。

(Id 課長) 自分ぢや、柔軟性があるって思ってるんですけど

(ITV) ちゃあ、期待しますよ。——問——
Idさん、わたしは^{*}、あの「おじいさん」のあのシーンか

ら、もっとちがったことラインしてるんだけど。あの「おじいさん」から、ジッとみつめてる、だけを、だけに、感心し、感動してたのでは、もったいないような気がします。

(Id 課長) ハー？

(ITV) あの「おじいさん」、待ってるんじゃないの？

(Id 課長) なにをですか

(ITV) なにをでしょう。

(数名) わかった！

(Id 課長) しばらく考えてみます、ゆっくりと。

(Se 課長) 黒板(のさきほどのId課長の文言)

は？ 残しておきますか？

(Id 課長) あとで、変えるとして……

(ITV) いま、考えませんか、

(Id 課長) しばらく、ゆっくりと、自分なりに……

(ITV) 自分なりに、ですか

(Se 課長) Kaさんでしたかね。これ^{チャット} 説明してくれませんかね。「心理的存在」……

(Kd 課長) いたったのはです^{*}、一、二、

三、四、五、六番目。「あらわれる」というところ、六番目のそこるところまでと同じ意味です。それを少しまとめていっちゃったという感じですよ。

(Ue 課長) ああ、そういう意味ですか。

(Kd 課長) ハイ。

——間——

(Km 室長) ということは、それ消しちゃってもいいね。

いね。

(Kd 課長) いいです。消して下さい。

(Se 課長) 消すのは、あとで。説明してもいいんだしね。

だしね。

(Km 室長) だから、いやなんだよ、黒板に書くの。

(Ue 課長) ナンカコウ、暗示にかかりやすいとか、そういうことでは、ないのですね。ぼくは、そういう感じて受け取っていたんで。

(To 課長) Km さん、ぼくは、ちょっと聞きたいのはネ。

(Km 室長) ハイ。

(To 課長) 「ほんとうにわかれば」ちゅうのは、相手のことがほんとうにわかればか、いおうとすることがほんとうにわかればちゅう、どっちを主に考えておられる、考えてとるんですか、

(Km 室長) それは * 相手のことでも *、相手のい

ってることでも……

(To 課長) そすつと、ほんとうにわからんと、相手に気づくための言動がとれないちゅうことは逆はあるん

……

(Km 室長) そう、

(To 課長) そうかね。パーソナリティーがいる、の人がいますねえ、その相手がほんとうにわかるなんて軽々しいもんぢやなかるうに。

(Km 室長) だからほんとうになって、使ったの、

(To 課長) そすつと、めったに相手に気づくための言動がとれるツちゅう事態はおこり得ないね。

(Km 室長) ぼくはいまもう、気づいてもらうための行動をとるということは、……

(To 課長) 充分にとれないね。

(Km 室長) ……自分にとっても、たいへんなことだと思っっているの。

(To 課長) だけど、今回の討議……

(Km 室長) めったに

(To 課長) ……では、結構ね、ハッと気づく、よ

うな現象があつちこつちにありますね。いろんなヒントから、フ、ちよつと眼鏡のこら辺をさわるだけで *、それで相手がハアとわかっていくような話とかね、

(Km 室長) ハア、ハア、ハア、

(To 課長) そういうような話がありましたですね

え、それはほんとうにわかったのかどうかはわからんですね

ちよつと。ぼくはそういうような気がしてね、

ラーニングの実態と本質 (三)

(ITV) あの一さきほど、ほんとうにわかればということが相手のことだというふうにおっしゃられたけれども、それも、はいるってことでしょ。

(Km室長) ええ。エツ?

(ITV) 相手のこともはいる、ほんとにわかるのはなにかというご質問だったんでしょ。

(Km室長) そうですねえ。

(To課長) そうです、そうです。

(ITV) そうでしょ。だから、それで、相手のことかといわれたでしょ。

(Km課長) Toさんがぼくに……うん、うん。

(ITV) そうでしたね。だから、そうだとおっしゃったでしょ。——間——それもはいるということなん

(Km室長) そうです、そうです。ッ、相手の

(ITV) のこともはいるし

(Km室長) エエ、要するに、わかったかわかんないかきめるのは自分なんですけども*。

(ITV) ムウ、そうでなくて、ほんとうにわかればということの、ほんとうにわかるというのは、なんのことなんだ、なにがわかるんだ、ということだと、こういわれて、デいわれると同時に、相手のことがわかればということか、こういわれたわけでしょ。

(Km室長) エエ、エエ

(ITV) そこでアエ、そうなんだけれども、それだけでもないでしょ。

(Km室長) エエ、エエ、そうです。

(ITV) だから、それも、はいる、

(Km室長) アア、ソーカ。

(ITV) こうおっしゃれるとアエ、

(Km室長) なるほど

(ITV) ちゃどんなものがあるんですかと来る。

そうすると、たとえばそのとき問題になっていることの、ほんとうの、意味、どこに問題があるかというほんとうの所在、というようなことも……

(Km室長) そうなんです!

(ITV) そういう相手に対してどう説明していくか、ほんとうのことってのわかれば、問題から環境から相手からということごとくをふくめられ、そのことごとくが全部わからなくても、あることがある程度わかってくりや、

わからないときよりも手が打てる、こういうことでしょ。

(Km室長) そうですね。

(To課長) それではわかりました。ただアエ、字句にとらわれましてですね。

(ITV) わしは、字句にとらわれるというのは……

(To課長) ほんとうという……

(ITV) ああ、わかってやろうとして読むんですよ。

(T○課長) ハア、ハア ハア

(ITV) これわかんねえなあわかんねえなあと読まずに。ほんとにわかるということば、どういふことだろう、相手のことかな？ そのとき問題になっていることかな？ とかなんとか、自分で入れて補足して「ッヤ」と、いいんぢやないですか。

(T○課長) いや、アノ、もう一つの疑問は「メス」、

アノほんとうにというほんとうにその程度の問題なんですよ。それは、ほんとうにわからないと駄目なかなアノいうことが、疑問に思ったもんでございますから、「メス」その字句がないと

(ITV) あのねエ……

(T○課長) ……「メス」。非常に、わかればという

程度であれば、

(ITV) ここでひとつ、みなさんに。こういうこと

とやってくれといつて、はいやりますと、この問題はこうだろう、ほんとにわからなくてもこうだろうとやって、むしろが納得してやる、われわれは、それ以上のこと考えているのぢやないかと思ふんですよ。相手が「メス」こちらが期待するぐらいの、心理的エネルギーを出してやってくれること、なんです。形式的にやってくれるというようなことぢやなく

ラーニングの実態と本質 (三)

て。

(Km室長) ウン、ウン。

(ITV) その程度までもって行ける程度の理解

が、ほんとの理解でいいんぢやないですか。

(T○課長) あーあ、そういう読み方をするわけ

ですか。わかりました。そうする、すると、いうことであれば……

(ITV) われわれが期待するのは、やれてい

たからやる、お坐なりにやる、出せっていったから出す。

出たでしよう、品質はどうでもいいでしよう、なんていうようなことになっているので、部下に命令するなりしても、そういうふうにやってくれる、手が打てるためには、事柄を、科学的に、全部わかつちやえとかなんとかいふことぢやなくて、やってくれる程度にほんとうにわかればいいのぢやないですか。

(T○課長) まったく、おっしゃる通りに思いま

す。ですから、そういう……

(ITV) ぼくはそういうふう

(T○課長) そういうふうにお読みにな

(ITV) ウーン。

(T○課長) わたしは、ほんとうに……

(ITV) ほんとうにとほどの程度に

(T○課長) そうなんです。

(ITV) なら、学者がいう通りにぢやないか

(TO 課長)

ハア—イ。

(ITV) 学者だってわからないことある。だから必要な程度に。どこまで必要かっていうと兎に角、この道のさきに、学者のいうほんとうのことが、調べればわかるとういうことがあるならば、この路線上、相手が協力してくれるところ、と諒解したんですが、よろしいですか。

(Km 室長)

そういうことも含めて、自分がわかったと思えたら、それでいい。

(ITV)

ウーンウンウン。

(Km 室長)

いいたいんですよ。

——間——

(TO 課長)

また、そうなるとチャットわかんないね。

(Kn 部付)

わかったと思えたらそれでいいというのとね、いま先生がおっしゃったのは、チャットコノ文章がひっくりかえっちゃまいてね、相手に気づいてもらう、行動をとるためには*、マそのほんとのという定義はいろいろとあるのだが、ほんとうに自分がわかってないといかん。自分がほんとうにわかってなければいかん。そういう……

(Km 室長)

そういうことも、あるわけ。

(TO 課長)

ウーン？

(Kn 部付)

そういうことも、あるわけ？

(Km 室長)

だって、自分がわかったわかんないの、にね、行動おこせないでしょ。——間——あのコノ劇中の場面でもなんでもいいんだけど、たとえば「建築技師」が*、相手とコッやりとりしているときに相手の状態を、わかって、それで必要なアクションをおこすというケースもあるし、劇の冒頭では、みんなが有罪といっている、自分は無罪と、ゆってる自分の気持も自分なりにわかっていないと行動おこせないでしょ。

(Kn 部付)

かもしれませぬね。

(Km 室長)

だから相手が、ぢやない、その対象が相手であれ自分であれ、ほんとに自分がわかったと思わないと、行動はおこせない、思うんですよ。

(Kn 部付)

ウン。

(Km 室長)

だから逆にいえばほんとに、「ワカッタノ」って、自分でアツと思えば、パツとコォアクション出来る、という意味もいっているわけですよ。

(Kn 部付)

ウン。だけど、そういうわれてみると、それはあたりまえだといえは*、あたりまえだという気もするん*ネエ。わかれば行動がとれる。いやそれはその通りだ。だからその次のはなしが*どうなるかという……ことなんですよ。

(Km 室長)

あたりまえ、かもわかんないけど*、ぼくはあれを出したときに*、この劇をみて、あらためて、

ほんとにわかるってことは、たいへん、重……

(K n 部付) アーアー

(K m 室長) ……要なことだなあっていうことがほ

くにはわかったの。

(K n 部付) なるほど。

(K m 室長) くちでペッパといわれるとね、

(K n 部付) あー、なるほど。あー。

(K m 室長) そんなセオリーみたいなことアッター

エ、ぢやないかっていつちやうけども、案外アッターマエだなんていうことが、できねえんぢやないかと、気がついたッですよ。

(I T V) ウーンあのう、この表現、「ほんとうに」

を変えませんか。「ヨリよくわかれば」。ヨリよくわかれば、相手に気づいてもらうための行動がヨリとれるト。

(K m 室長) ウーン、ウン、ウン。そうですね。

(S e 課長) いいですか。——間——安定しまし

た。

(I T V) ぼくは * だから *、さっきの T o さんや

なんかの質問まことに、痛感するッですよ。よく *、「原点へ帰えれ」なんていうでしょ。原…点…点…てオマへどこなんだ。だいいきらいだぼく、「原点に帰えれ」なんて。多くの場合 * それ、いつている人の都合のいいところなんだそれは、いつているやつ。学者がいつているような原点に帰えるや

つまずきやすいよ。「原点に帰えれ」なんてこというやつ *、

ほんとに勝手なやつだと思う。かたちとしても文章的に非常

にいいんですよそれ。だけど、実生活、社会で使っている

やつ、実に勝手なやつだと、のような現象が多いですね。と

いう意味で T o さんのさっきの気持ち、まことに尤もだと思

う。「ほんとうに」なんてどこまでかわかりやしない、と

いうふうに思いましたんでネ。そこで、「実務人」として然

るべきところに、いうようなところでしような。すくなく

も、相手よりは、よく知ってなければ、駄目ですよな。相手よりもよく知ってもいいにくせに、大義名分なんか掲げて、やっていることがないかと。もうすこし簡単にすると、

「われわれは日ごろ、問題だとか環境だとか相手だとかいう

ことをさほど知りもしないで相手をリードしようとしていることはないかその反省が必要だトいうことに気がついた」

ト。こういうことかも知れないなあト。こんなふうにも理解

しながら、うかがったわけです。ヨリよくで、K m さん、いいですね。

(K m 室長) これもいいんですけども。うまくい

えないんですけど、ほんとうにわかるということ、自分で自分のわかったということ、正式に承認できるといいますかね、そういうわかるということ、重要だと思う。だから、ヨリよくわかるということ、われわれ組織人ということでおっしゃったこと、そのまま、スウッと、はいるんですけど

ラーニングの実態と本質 (二三)

も、もうちょっと、

(ITV)

その程度のことでもって安心しちゃっ

やいかん^ト

(Km室長)

いやいや安心しちゃっやいかんとい

うことでなくて、ぼくがほんとうと使ったときの、おもいっ
ていうのが、またありますっていうことをいいたいで、

(ITV)

わかりました。

(Km室長)

いいえ、いいえ、いいえ。

(Se課長)

逆にKmさん、こんなことぢやないん

ですか。ほんとに*、たとえばァノソーシャルな関係の* A
がBのほんとに困っていることがわかったトすれば、ソノ黙
ってても*、Bを助けるための行動が、でてくるんぢやない
かという感じ。

(Km課長)

ウン、それもはいるな。だから案外

ね、相手が困っててなんかして、それがほんとにわかった
ときに、ワッとこっちが泣いてやったら*相手はれる、って
いうこともありうるだろう。

(ITV)

あの、Kmさん、さきほどのお話ネ、

ぼくも同じ気持でいるんだけど、ぼくが実はいいえ、いい
たのは、ソノヨリよくでもないんですよ。ほんとうに、いい
たかったのは。それ、あなた、おっしゃられたから、ちょっ
とハンシャイダ気持が出て来たので、うれしくなっちゃって、
また、いうんだけれども、「ソーシャルな関係において、本

質的なものがわかれば、」

(Km室長)

ウン。ウン。

(ITV)

と、いうことだト。

(Km室長)

ウン。ウン。

(ITV)

お気持、キニツとなりませんか。

(Km室長)

そうですね。

(ITV)

それが、わし、元来の、主張なんで。

(Km室長)

アー。

(ITV)

本質的なことが、こまかァーくわかん
なくたっていいんですよ。この方向にあるんだったら、これ
手ふりゃあ、いいんで、あんなところまで、行く必要ない。

(Km室長)

そうですね。

(ITV)

そういうことでしょ。チしかも間違いは
ないッだ。この方向なんだから。もっとやってくれていう
んだったら、またやればいいんですよ。だとすると、本質的
にわかるトいうことで、お気持を代表できるかなあト……

(Km室長)

できます。

(ITV)

……提案。

(Km室長)

ハイ。

(ITV)

「原点に帰えろウ」などというやつがい
たら*、「本質に戻ろウヤ」トこういうことを逆にいってご
覧なさいということ、本に書いたことがある。

(Km室長)

ふつう「原点に帰えろウ」なんていわ

れたら、びっくりしちゃっていままでのことパアッと忘れちゃったりして、

(ITV)

あれだから、脅すのに都合がいいんですよ。

——間——

ネット Km さん。あなたアメリカ在住三年で、英語堪能でいらっしやるから。これ*、本質的に正しい、いい方向とっているッテいうの、アーキユリットという

。英和辞典には載ってないけど。だから、わたしは、「正統に」なんて訳している。そういう意味で「正確」な。精密に細かく正しいってのプリイサイズ、これとは断然ちがう。行動は、アーキユリットに正しいことを願うよりしょうがありません。その意味でしょ、Km さん。

(Km 課長)

ありがとうございます。ゼンゼンス

カッとしちゃった。

(ITV)

エフエクティヴネスっていうのこれ。

(Km 課長)

なるほど。

(ITV)

能率や、いま世間でいわれている効率、

両方ともエフィシエンシーのこと。能率や効率なんか、あげようとしてたんじゃあ、駄目ねえ、行動は。

(Km 課長)

ウーン……

(ITV)

人間の行動、組織の行動は、ネ。

(To 課長)

どういうことですか？

(Km 課長)

イヤネ、アーキユリットにわかる、いい方向でわかれば*、そのあとの行動がエフエクティヴにな

るってこと。

(Kn 部付)

そりゃ当然じゃないの？ 問題は、ア

ーキユナに？ いい方向でわかるって、どうやりやわかるのよ。

(Km 課長)

だからウーンなのよ。

(To 課長)

あーあ、そーか。

(Kd 課長)

To さん、わかったの？

(To 課長)

そういわれれば、わかんない。わかってないのかなあ。マアいいや。

(Se 課長)

Kn さん!?

(Kn 部付)

ウン？ ウッ。まあいいよ。

(Km 室長)

隣りで、まあいいよなんていわれると、チョッと気になる。

(Kn 部付)

気になるんらいいますけど、ヤッパ

リ「とれる」というところが気になるのネ、ぼくは。ヤッパ

ラインというのは、もうちょっと前向きというんですかね、言葉のちょっとしたニュアンスが気になるのだけどね。

(Km 室長)

そしたら*、とれるというのをラ

ンでできる、といたらいいの。

(Kn 部付)

ちよっと、ちがうなあ。

(Km 室長)

あの設問からいったら*、「なにをラ

インすべきか」といったら*、「本質的にわかれば、相手に

気づいてもらうために、本質的にわかったことにふさわしい

ラーニングの実態と本質 (二)

行動がヨリとれるということを、ラーンすべきだ、といったら、落着くのか？ そういう意味？

(ITV) あなたネエ、とれるなんていっていら、とらないかもわからないから？

(Kn部付) マア、そんな。エエ。

(Km室長) そういう意味？

(ITV) そんなことをいってないで、とつたらいじやないかって？

(Kn部付) ウーン。だから Ernst というような意味のネ。意味がもうちょっと入った方がいいんじゃないかなあ。その程度のことなんですよ。あんまりこだわる気はあ

B 非通常水準グループの一例 (記録)

(ITV) この映画からわれわれはいったい何をラーンすべきか。コンセンサスで、答を一つないし二つぐらいに絞ってほしい。では、(どうぞ) ……

(約三分沈黙)

(Mi課長) とりあえず、やろうか？ 黙って考え

りませんよ。

(Km室長)

ウン。OK！ ぼくは*、本質的にわかれば*、だまってたって行動するだろうと、思うの、ぼくは。そ、そういう意味が、ほんとうにわかったということなんだ。あーわかった、よし、よし、で終わるわかったじやないと思うの。マ、というこ……

(Se課長)

だまってみてられないなくなるってこと。

(Km室長)

……とで、

(ITV)

ごく自然体でそうなっていくと。

(Km室長)

そう。だから、

ていても、進まないや、こりゃあ。ねえ！
笑い—— 数人の

(An課長)

一番、っていう……

(Mi課長)

自分は何を学んだか、ラーンしたかあたりから入っていけば、ウン、それはいいラーンだと……

(Sh課長)

ウン。

(Mi課長)

……というのが、でてくるんじゃないか

なあ。

(Sh 課長) そういう、感じは、しますね。

(Mi 課長) どうだろうか。——問—— ぼくは

マいいだしつべでわるいけど、なにラーンしたかなアつと考
えはじめたんだけど、うまく出てこない。出てこないだけ
ども、あのかなかで、コッ、変ってったよね、無罪に。

(Fu 課長)

ウン。

(Mi 課長) 変ってった連中の表情みているとネエ

非常に満足して、変っていつている表情っていうか、変った
あと、非常に満足、して、いる……

(Sh 課長)

ウン！

(Mi 課長) その原因はなんだろうというと、……

アノ、「ヘンリ・フォンダ」のサ、説得のしかた、とい
うか、そこにね、つねに相手の立場を考えながらやってい
んのかナア、おしつけてない、自分のアレを。だから変って
った、人も、強制されて変ったという感じが、ないの。

(Sh 課長)

ウン、自分が確信もって……

(Mi 課長)

ウン。自分がきめたト。いうふうに思える……

(Sh 課長)

自分がきめたト。いうふうに思える……

：

(Mi 課長)

ウン、なんかそんな感じが非常にした

んだけどねえ。

(Sh 課長)

思っているんだろうしねえ、またッ。

ラーニングの実態と本質 (三)

(Mi 課長) ウーン！

(Sk 課長) その相手の立場というのは、少年では

なくて、陪審員？

(Mi 課長) エェッ？

(Sr 課長)

わたしは、いまSkさんがいい始め

た、比較的早い時期に少年のことも考えなくちゃんなんかそ
んなような意味のことを、「フォンダ」がいったことィッバ
ン印象に深いですけどね、……アノオ……

(Ri 課長)

Srさんがおっしゃったのは……、い

まの？ なんの話で？

(Sr 課長)

いや、アノ相手の立場という話のこ

ろで。アノオ……はなしたん……アノ、Skさんが、どっち
の、なんだという質問のところでは……わたしはそちらの……
方に、

(An 課長)

共感をかん……

(Sr 課長)

相手の、ということでしたら……

(Ri 課長)

ハアー？ わたしは、みんな満足して

いった、ちうのはネエ、いまの話に関連していえば。むしろ
これらの論議聞いていると、コノとにかく真実をコッ、はっ
きりさせるんだという、アノウ、なかみはみんなそんな感じ
でしょう、真実、真実、真実、真実を追求していく。だから
アノ満足した顔っていうのはむしろ、真実がはっきりした
ちゅうちうこと、なんのわだかまりもない、はっきり、ああ

ラーニングの実態と本質 (三)

なつていったから。それでも満足の顔になつたんだと、理解しているんだけど。あの、いま……(と、M課長の方をみる)。

(Mi課長) (反応を求められて) わたし、ちょっと、ちょっとちが……

(Ri課長) ちがいます!?

(Mi課長) ちがいます。真実がはっきりして、な

い……

(Sh課長) ウン。

(ITV) ……ト、いうことが、はっきりして、き

(Mi課長) ええ。真実がはっきりしてないト、は

つきり

(Sh課長) ハッハッハ、

(Ri課長) アー、そうですね、そうですね。

——間—— 論議が……。論議ぢやないか。説得だとか、うまさとか、そんなのぢやなくて……

(Mi課長) ええ、説得ぢやないですねあれはね。

(Ri課長) いわゆる説得ぢやな……

(Mi課長) 相手に気がついてもらおうとしてるん

でしょ、……

(Ri課長) ウン。

(Mi課長) ……一人づつ。気がついてもらっ……

て、気がついてくれた人が、変つてつたという……

(Sh課長) そう!!

(Sk課長) そうですね、あの「野球狂」を除いてはあとみな納得、納得して、意見を交えてつたわけですね、みんなね。

(Ai課長)

「野球狂」だって、納得ぢやないの?

(Sk課長) そうでしたか。

(Ni課長) そう、断然確信もつてました。

(Ad課長) 無罪の方にいれてからは、わるふざけ

しなくなつた。

(Sk課長) そうでした、そうでした。そうなる

と、全員、説得(で)ぢやない。

(Sh課長) これがラインだ。

(Fu課長) ぼ、ぼくらは、ぼくでもない、説得つ

てこと、いいことだと思つた。

(Yo課長) いまのいままで、ね。

(Ni課長) 「われわれ」として「ラインすべきこ

と」、ネ。

(Ri課長) 一つ、でた、ネ。

(Na課長) 先生、コンセンサスぢやなくぢやいけ

ないんですか? ユナナマスぢや?

(ITV) そんなに賛成しますか(みなさん)?

チャア結構ぢやないですか。

(Ai課長) も一ついこうよ。